

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回茨木市男女共同参画推進審議会
開催日時	令和7年7月31日(木)午後2時00分～午後3時20分
開催場所	市役所南館3階会議室
議 長	長町 理恵子 会長（追手門学院大学経済学部教授）
出 席 者	長町会長（追手門学院大学経済学部教授）、平山副会長（大阪公立大学大学院文学研究科准教授）、樫本委員（元小学校校長）、木曾委員（男女共生センターローズWAM事業運営協議会会長）、田井委員（エンパワメントいばらき）、道満委員（茨木市人権擁護委員会委員）、中野委員（茨木商工会議所中小企業振興部地域担当部長）、橋本委員（医師）、藤里委員（弁護士）、茂原委員（市民公募）、森委員（市民公募） 【11人】
欠 席 者	畑委員（毎日新聞客員編集委員）【1人】
事務局職員	中井市民文化部長、松山市民文化部次長兼人権・男女共生課長、富崎人権・男女共生課参事兼ローズWAM所長、山下男女共生係長、奥田ローズWAM所長代理
開催形態	公開（傍聴人3人）
議題（案件）	(1) 令和6年度いばらきジェンダー平等プラン（第3次茨木市男女共同参画計画）推進状況報告書について (2) 令和6年度茨木市配偶者暴力相談支援センター事業概要について (3) 令和6年度茨木市立男女共生センターローズWAM事業概要について (4) その他
配布資料	・ 会議次第 ・ （資料1） 令和6年度いばらきジェンダー平等プラン（第3次茨木市男女共同参画計画）推進状況報告書 ・ （資料2） 審議会等構成員数一覧表 ・ （資料3） 令和6年度茨木市配偶者暴力相談支援センター事業概要 ・ （資料4） 令和6年度ローズWAM事業概要 ・ （参考1） 中学生向けデートDV予防啓発冊子 ・ （参考2） 茨木市LGBTQフレンドリー企業登録制度ちらし

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	「令和7年度第1回 茨木市男女共同参画推進審議会」を開催する。
事務局	<事務局紹介> <会議の成立について説明> 本日の出席委員は全12人中の11人で、欠席委員は1人。半数以上の出席があるので、茨木市男女共同参画推進審議会規則第6条第2項の規定により、会議は成立している。 <諮問の提出について> <諮問書の内容説明> 案件1「令和6年度いばらきジェンダー平等プラン（第3次茨木市男女共同参画計画）推進状況報告書について」 案件2「令和6年度茨木市配偶者暴力相談支援センター事業概要について」 案件3「令和6年度茨木市立男女共生センターローズWAM事業概要について」 【資料1～資料4に基づき事務局から説明】
長町会長	質問や意見等あれば、お願いしたい。
木曾委員	一つは、推進状況報告書（資料1）p.3の番号2「男女共同参画社会推進登録団体数」がどんどん減っている。以前も数字について話をしたが、数字が変化することで、市としてはどのように考えて、どのように取り組んでいこうと思うのか意思を聞きたい。 二つ目は、ローズWAMでの相談事業について、男性相談は毎月第3・4水曜日の電話相談だけだが、相談機会の拡充予定はあるか。また、電話相談以外のLINE相談での実施など、電話や対面以外のアプローチが多くあるという話が何度か審議会の中で出ていたが、今、実際にはどうか。
事務局	資料1のp.13番号16の男女共同参画に取り組む市民団体の企画数は一定数あることから、市民活動は停滞していないと考える。
木曾委員	団体数が増えることがイコール、男女共同参画社会の推進につながるのかというと、少し異なるように思う。登録数が増えるかは、登録手続きの労力によると思う。ジョインと企画や、今年度は応募数が少なかったチャレ

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	ンジ企画など、応募数が本当に目指したい社会に適した指標なのか。 資料1のp. 3の番号3「男女共同参画に関する講座の実施回数と事業に参加したこどもの人数」は実態に近い数字と思うので、下がったらよくない指標で、気になっている。すべての指標が上がれば良いということではなく、落としたらよくない指標は注力する方が良い。同ページの番号6「男性の生活能力向上のための講座」に関しては、おにクルでの子育てイベントへ参加する「こども慣れした男性」をたくさん見かけるようになったので、この層が埋もれていたと実感している。いい傾向だと思っている。
事務局	指標設定の検討については、次期計画策定時に行いたい。 相談手法については多様化しており、LINE相談の場合、即応性が求められる。いつ入ってくるか分からない相談に対応する人材の手配に苦労している。男性の相談機会の増加についても同じで相談員の手配に苦慮している。
木曾委員	NP0の中には、世界中に相談員がいて24時間対応で相談を受け付けている団体もある。市だけでは相談体制の強化は難しいだろうが、業務委託など民間と連携できるか検討され、相談機会の増加に繋がりたい。 大学生との連絡先の交換は、LINEからInstagramへ、SNSはTikTokが主流になっている。なので、LINE相談も、アクセスしにくい手段と捉えられるかもしれない。課題がありながら導入するのは難しいとは思いますが、完璧でなくても導入してほしい。 資料3のp. 5の来所相談者の年齢では、20歳代、50・60歳代が倍増しているが、相談理由等わかれば教えていただきたい。
事務局	全体で来所者が増加しているという傾向はある。今まで相談したくても相談場所がわからなかった方や、他部署からの繋ぎでDVセンターに繋がるケースも増えていると思われる。
樫本委員	おにクルが市民に周知されている今だからこそ、ジェンダー平等プランを広めていってほしい。男女共同参画も各課との連携がなければ始まらないので、人が集まるところと連携を立てて、ジェンダーの支援を乗っかっていただきたい。 資料1のp. 35基本目標7「ジェンダーに基づくあらゆる暴力の根絶」では具体的施策35、36とあるが、学校現場での教員からこどもたちへの暴力に関する報道が多々あるので、ぜひ教職員課や学校教育推進課と繋がり、こどもたちへのストップを図られたい。ローズWAMの実施事業でも暴力防止について薄手になっている。デートDV予防啓発に関する出前講座

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	は、ぜひ市内にあるすべての中学校・高校に行っていただき、デートDV予防に取り組んでいただきたい。 登録団体の育成については年齢や団体が固定化しているため、WAMの喫茶スペースを定期的に活用し、団体の育成を主導的に図られたい。エンパワメントいばらきが設立したのも市が主導的に団体の育成を図ったからである。団体の負担が大きい中、続けている団体の活用を図られたい。また、市民の皆さんに団体の活動内容をどのように広げていくかも考えられたい。
長町会長	デートDV出前講座や啓発冊子の活用の見通しがあれば回答いただきたい。
事務局	デートDV予防啓発冊子は中学校長会で報告しているほか、茨木市人権教育問題研究会や、労働組合にも働きかけを行っているが、学校で取り上げてもらうにはまずは教員への理解が必要だと思う。今まで薄かった部分を深めて繋げたい。
田井委員	DVセンターの相談について、面接相談が増加しているが、電話でなく、面接しなければならないつなぎがあったのか。世の中の流れで面接相談が増加しているのか。LINEやネットなど、対面ではない方法の相談手法もあるが、相談者が対面を選ばれている理由はあるか。 所属する「エンパワメントいばらき」は、普段小学3～4年生に「暴力から身を守るワーク」を行っている。おにクルに来るこどもたちにも伝えるため、わっくるチャレンジ応援事業に応募し、今年4月に、3歳からを対象にしたワーク「わたしのからだはわたしのものよ」をおにクルで実施した。紙芝居方式で、通りすがりの家族連れにも参加いただき、大変好評であった。体のことを小さいうちから学んでいただき、ローズWAMの活動とつなげることができた。子育て支援課から全市的に広めるため、団体の紹介依頼があった。おにクルの子育て支援だけでなく、WAMからも発信し、広げていきたい。 今年度は特に教員の問題報道がなされている。先日、他市で講座を実施したときには、保護者の方が報道を受けて急遽参加し、こどもたちがどのように学んでいるのか見学に来たという意見もあった。なんとか小さいうちから学ぶようつなげたい。 「エンパワメントいばらき」も今年度からNPO法人となったので活用いただきたい。 新任の先生方に対して、団体が行っている、小学3～4年生が受けているワークを見てもらう機会を設けていただきたい。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	DVセンターの面接相談件数については、同一の方の相談が1回で終わるものではなく、1名が複数回計上されている。各種証明書や住民票等の閲覧制限に関する意見付与については、年に1回更新が必要のため、継続した支援を行っている。
道満委員	相談案件として重たい内容が面接に来ると思うが、伸びている理由は。
事務局	もちろん重たい事案の方もいらっしゃる、警察が被害を受けられた方をセンターに連れてこられるケースもある。日ごろからDVを受けている方や、保護を受けられた方が、逃げられた後も書類発行などで支援を求められるなど、多岐にわたっている。
藤里委員	令和6年度から相談体制が充実したことに比例して相談件数が増えたのではないだろうか。継続して相談に来られる方は、面談1回で問題が解決するのではなく、相談内容の重い・軽いではなく、継続案件があるからではないか。弁護士相談でも相談件数が増加しているように感じている。
木曾委員	DVセンターのp. 3に、外国語話者のためのトリオフォンが準備されていると記載されており、安心している。茨木でも英語圏・中国語圏以外の外国人が増えているが、外国籍の方の相談も入りだしているか。
事務局	外国籍の方の相談ケースは皆無ではない。令和6年9月から人権・男女共生課で「外国人総合相談窓口」を開設しており、英語話者には通訳できる職員がおり、DVセンターに派遣したこともある。トリオフォンについては、他課でも利用登録している。英語以外の言語での相談にはポケトークで対応している。
	案件4「その他について」
長町会長	事務局から報告があるとのこと。説明を求める。
事務局	【参考1～参考2に基づき事務局から説明】
木曾委員	デートDV冊子p. 3の「バウンダリー（他人との境界線）」は大切だが、世代を超えて話すことができない。すべての世代の方に関する話だが、概念さえ広まっていない。どのように取り扱い、広めればよいものか。WAMで取り扱っていただきたい。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
樫本委員	「境界線」と言っていたが、若い子はきつい印象を受けるようだ。バウンダリーというふわっとしている感覚がある。ことばが独り歩きするのではなく、中身をきっちりととらえて一緒に伝わってほしい。
田井委員	チャレンジ企画で専門家をお呼びして境界線ワークをしたことがあり、よくわかったという感想をいただいた。また、高校生との交流で境界線の話をした際、境界線は人によっても、その日の気分でも違う流動的なものなので、自分でつかみ取れるようになってほしいという話があった。私たちもWAMの皆さんと協力しながら、伝えていければいいなと思う。
木曾委員	シェアハウスをしているが、バウンダリーで悩むこどもも多いので、うまく伝わってほしい。むしろ大人が他者との境界線を踏み越えていることも多く見受けられるので、このテーマはぜひ大事に扱って欲しい。 フレンドリー企業登録制度については、シンプルになってよかった。広めるには営業するしかないのではないかと。5～10社ほどに受けていただければ、軌道に乗ると思われるが、企業側にメリットはないと思う。当事者の方にメリットになればと思う。
道満委員	研修の講師はどのような人か。 人権擁護委員会では、企業向けL Q B Tに関する研修をしている。
事務局	L G B T Qを支援する団体に依頼している。人権擁護委員会で研修を希望された企業には、本制度を周知いただければ。
茂原委員	今年度の目標値もないが、でだしが大事かと思う。この半年間で目標を設定したほうが広まると思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。
中野委員	商工労政課が実施するオープンカンパニーをした企業などは、受け入れ態勢があり、市に協力的な関係なので声をかけられてはどうか。
長町会長	新しいことに取り組まれない企業もあると思う。
中野委員	登録による効果が出ると、企業間での口コミで広まることもある。
木曾委員	デートDVに関してだが、チャットG P Tを交際相手にする若者たちがいる。チャットG P Tを彼氏にした結果、さまざま学習させて理想の交際相手を作り出したが、束縛や人格否定など、生身の人間でなくてもDVのよ

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	うな関係性が生まれた。 また、DVや子育てに関する相談をチャットGPTやAIにする人もいる。複数のAIを用いて、寄り添った意見をくれるもの、厳しい意見を出すもので参考にされたりしている。
中野委員	チャットGPTやAIも自分で使ってみないとわからない。
木曾委員	議事録とりまとめも3時間の会議を5、6分に要約してくれるアプリもある。チャットGPTやAIなども使いようだと思う。
長町会長	子育てで、親が「片付けしなさい」と言うと、こどもに怒ってしまうこともあるが、こどもがAIと対話しながら片づけをするといった内容のテレビ番組があった。生活にAIを導入することで、こどもも片付けに対して冷静に取り組むことができ、子育て負担の軽減になっていると報じられており、すごい世の中になったと思った。 一方で、相談を受けている窓口には専門の相談員がいるが、相談業務にAIを導入する場合、AIだとこのような意見もあるという回答の選択肢のひとつであればいいが、AIの回答を鵜呑みにするとショックを受けることもあるのではないかと。AIを安全に使うことには課題があると思う。 バウンダリーについては、アプリで互いの位置情報を共有している大学生がいる。仲が良い関係のうちはいいかもしれないが、関係悪化した場合はとても危ういと感じる。友達の間柄でもどこまで踏み込むのか課題もある。
木曾委員	その世代の若者たちとコミュニケーションをとっていないと実際に本人達がどのように感じているのかはわからない。現場での体験や感覚も生かされると嬉しい。
長町会長	その他事務局から報告はあるか。
事務局	会議録については出来上がり次第送付するので、ご確認願いたい。
長町会長	それでは、第1回茨木市男女共同参画推進審議会を閉会とする。 ＜閉会＞ 以上